

2023年2月24日(金)～26日(日)

## 第23回全国青年対策交流会議に参加して

全港湾中央執行委員長、鈴木誠一委員長の挨拶にて開催せられ、真島勝重全国港湾執行委員長からはこれから賃金を上げていかないと仕事はあるのに人員不足ということになり会社が倒産していくとのことのお言葉に、私も会社に訴えていかなくてはならないと強く思いました。

各地方活動報告を聞いた際は北海道から沖縄まで、様々な活動をおこなっていて素晴らしい資料と説明に驚き、各地方課題はあるとの報告の中で、自分も少しでも力になりたいと思えたこと、感じたことが参加して良かったことへ繋がります。

全港湾は戦後とともにあり、弱い者が集まって闘ってきた。日本国憲法より先に結成され、私たち青年部よりも若い人達により大衆討議、トップダウンではなく、ボトムアップでやってきた組合である。日本国憲法で団結権、団体交渉権、団体行動権が保障されているからこそ組合活動をやっていかなければならない。とのお話があり今後の組合活動に対する心強いお言葉でした。

分散会ではまず福島キャラバンについて、原発はなぜ危険なのか、事故により日常が奪われ、命が奪われる可能性がある。ゴミ処理や様々な問題が解決していないなかでの再稼働というのは福島原発事故の記憶が薄れてきているのではないかなど意見もありました。青年部の中に浪江町で小学校3年生の時に震災にあわれた方がいました。「失うものが多い」という言葉に心が痛みました。当事者意識をもちキャラバンだけでなく全国各地で原発反対行動を行ってもいいのではないかなど、原発に対する考え方や意識を変えるきっかけとなりました。

次に青年部活動についてのテーマは、若い世代の胸の内を聞くことができ、次世代をどう育てるか、社会的教育が今後の魅力ある全港湾へと繋がるのではないかと、まずは興味をもってもらう事、賃金や待遇についてはもちろんですが、一人の労働者や組合員を駆け出しから半人前、半人前から一人前へと導く教育と歩み寄りが必要なのではないかと思います。

コロナで交流や活動が減り組合離れが叫ばれる中、今後再開していくであろう流れにのり学習と交流を積極的に行っていきたいです。

中央本部からのこんな職場だったら、こんな労働環境だったらとのお題に対しては完全週休二日制、パワハラゼロ、育児休暇、など様々な意見が上がりましたが、総括とし残業に頼らない定時から定時に働ける環境ということで纏まりました。

私も諦めずこの環境になるよう闘っていきたいと思います。

この3日間、勉強不足と地方青年達との違いを痛感しました。同時に労働組合の基本でもある家族や仲間を守る大切さも感じました。

最後に今回の青年対策交流集会開催にあたり、ご尽力された皆様に敬意を表するとともに、送り出していただいた分会の皆様、家族に感謝したいと思います。

3日間ありがとうございました。

関東地方横浜支部日本高速分会  
青年部員 川口綾治